□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□
岡山大学法学部だより
□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□

※ 本メールは登録された方にのみお送りしています

第 39 号(2011 年 12 月 27 日発行)
発行：岡山大学法学部　学部長室

==

年の瀬になりました。法学部だより第 39 号をお届けします。今年一年法学部だよりをご愛読いただき、ありがとうございました。よいお年をお迎えください。

目次

○ ストラスブールより（第１回）
○ 在学生の活躍から～ジュニアロースクールに参加して
○ 法学部からのお知らせ
○ 最近の話題

○ ストラスブールより（第１回）

----

11 月のフランスはどうやら記録的な暖かさのようですが、ストラスブールだけはしっかり寒いです。天気予報を見ていても、ストラスブールだけが他の街より十度くらい気温が低い、このごろは一日中霧の中で、日がさすこともほとんどありません。ストラスブールはヨーロッパ議会や人権裁判所もあるヨーロッパ統合を象徴するような街で、市バスに乗ってヨーロッパ橋を渡り隣町まで行けばそこはもうドイツということにもなりますが、気候もドイツに近いのでしょうか。

さて、今回ストラスブールへ来るには、オランダのスキポール空港での乗継便で来たのですが、この乗り換えの時にパスポートコントロールを通るようになっています。「どこまでいくの？」「ストラスブール」「いつまでいるの？」「六ヶ月」「六ヶ月！？」「だってヴィザがあるでしょ」「そだね。ドモアリガト、コンニチワ」みたいな感じで通過したのでした。スキポールからは両備バスに羽が生えたような小さな飛行機で、一時間ほどでストラスブールへ到着します。

飛行機を降りて荷物を受け取るわけですが、小さな空港なので荷物のターンテーブルというのか、そんなのも二つしかない、で、みんなその辺でてもちぶさたに荷物が出てくるのを待っているわけですが、ここに落とし穴が。実は、もう一つ別の隠し部屋があって、日本からの荷物はこっちの部屋に行かないと出てこないのです。

オランダから乗った人の荷物は税関通る必要は無いので、大半の人の荷物は国内線とおんなじところに出てきますが、ヨーロッパ外からの荷物は税関通らないといけません。この荷物のために、ちゃんと閉鎖された部屋が用意されていて、ここに税関職員がいることになっているわけです。

だけど、この部屋が分かりにくいし、誰もそっちの方にいかないし、おそるおそるドアを開けてみても（税関職員も）誰もいない、おまけにいったん入ったら逆戻りはできない構造になってるし。

みんなのいるターンテーブルの方には自分の荷物はないし、本当にこっちなんだろうかと、しばらくドアを半開きにして様子を見ていたら、ゴトゴトとターンテーブルが動きだし、荷物も税関職員らしい人も出てきたので、ドアを閉めて荷物もらって税関の人に Bonjour と挨拶して（フランスではいつもとにかく挨拶）出てきました。どっちにしても実際検査するようなことは無いんだけど。

ストラスブールではパスポートコントロールは通りません。オランダでパスポートを見せたのは、日本でいえば入国審査に当たる手続きだったのです。仁川で日本の入国審査やってるようなものですが、人間の入国審査はオランダで終わってる、けど荷物はまだ税関を通ってないのでややこしいことになるのです。ヨーロッパ内で乗り継いだ時にはどこでもおんなじようなことが起こるのでしょうが、気をつけてないと「荷物が出てこない！！」と焦ることになります。これも、ヨーロッパ統合の一つの帰結ですね。

法学部教授　波多野敏

○ 在学生の活躍から～ジュニアロースクールに参加して

----

11 月 19 日、岡山大学にてジュニア・ロースクールが開催されました。私たち法学部の学生は、参加者である中高生が課題についてしっかりと議論出来るように、助言する役割を担いました。

内容としては、前半は「オークションルールを考えてみよう」というテーマで契約における効率と公正について考え、後半は「勘違い騎士道事件」を題材に模擬裁判を行い、実際に評議を体験しながら、刑事裁判における

適正手続とは何かを考えました。
私は去年に引き続き、２回目の参加になりますが、去年と今年の参加を通じて多くのことを学びました。その中で、特に皆さんにお伝えしたいことが２つあります。
　１つ目は、多くの立場の違う人たちが連携して１つのイベントを作り上げることの素晴らしさです。本番は 1 日間ですが、私たちはこの日のために何日もかけて準備をしました。途中、意思疎通が上手くいかず、行き詰まる部分もありました。しかしその分、終了後の達成感は何物にも代えがたいものでした。
　２つ目は学んだ知識をその分野について不案内な人に説明し、理解してもらうことの難しさです。当たり前のことなのですが、中高生に対して専門用語は通用しません。自分の言葉にして伝え、理解してもらえて初めて知識は意味を持つのだと思いました。今更ながら自分の勉強不足を痛感するとともに、今後社会に出てからもっと伸ばしていきたいと考えるようになりました。
　最後になりますが、ジュニア・ロースクールはとても達成感を味わえるイベントであり、皆さんの日頃の勉強を振り返るのにも良い機会だと思うので、来年も多くの法学部の皆さんに参加していただきたいと思います。また、このイベントを通して、１人でも多くの中高生が法律に興味を持ち、私たちの後輩になってくれると嬉しいなと思います。
今井　梨奈（法学部４年）

　11 月 19 日に行われた『ジュニア・ロースクール』に学生チューターとして参加しました。今回私は、法友会として、教材の作成から協力させていただきました。
　当日は、１限に民法を中心に『経済活動と法、効率と公正』を考え、２限に『勘違い騎士道事件』をもとに刑事裁判の保障について中高生たちと取り組みました。
内容は、民法の契約の成立過程や詐欺、錯誤から経済分野の効率と公正、刑法の正当防衛、過剰防衛などかなり難解なものでした。しかし、私が受け持った班は中学生の班だったのですが、質問をするとそれに対して的確な答えを返してくれたり、自分の考えを述べるときにはしっかりとした理由づけをして大学生顔負けの意見を述べてくれたりしていました。法律のことなどほとんど学んだこともないにも関わらず、私の拙い説明をしっかり聞いて、自分の頭で考えており、学びたい、理解したいという姿勢が全ての子に見られました。
　『ジュニア・ロースクール』に参加して、難しい問題にもくじけることなく向き合おうとする中高生の真摯でひたむきな姿を見て、これからの大学生活を送っていくなかでの学習へのいい刺激を受け、とても有意義な時間を過ごすことができました。
大谷　匠（法学部２年）

　○ 法学部からのお知らせ

☆法学部卒業生（進学者）状況調査について
　法学部では、現在、今後のカリキュラム改善の資料として、法学部卒業生（平成 16 年～23 年卒業対象）で大学院（法科大学院を含む）へ進学された皆さんの現況を調査しています。下記のＵＲＬをご覧いただき、ぜひとも調査にご協力ください。
法学部卒業生（進学者）の状況調査のお願い
http://court.law.okayama-u.ac.jp/questionnaire/

　○ 最近の話題

☆岡山大学法学部・法学会講演会が開催されました。
12 月 21 日、石川寛俊弁護士を迎え、法学会講演会を開催しました。同弁護士は、医療訴訟を数多く手がけられており、講演では、日本と韓国との医療訴訟の違いや最近の最高裁判決の変化などについてお話をしていただきました。
::
・本メルマガは，毎月２回程度配信しています。
・法学部の詳細情報に関しては、HP も併せてご覧ください。
　法学部 HP　http://www.law.okayama-u.ac.jp/
・本メルマガには返信なさらないようにお願いします。
・本メルマガの登録・解除は、以下の URL にてお願いします。
　http://court.law.okayama-u.ac.jp/mail/register.html
・ご意見・ご感想は，法学部　情報委員会 joho@law.okayama-u.ac.jp まで。